

名勝 磐窟谷

石灰岩がつくる溪谷美

川上町から備中町にかけて広がる標高五〇〇以上の大賀台は、新見市の阿哲台とともに岡山県を代表するカルスト地形として知られています。約二億年前の海底に堆積した石灰岩が陸化して浸食を受けたもので、川上町菅野

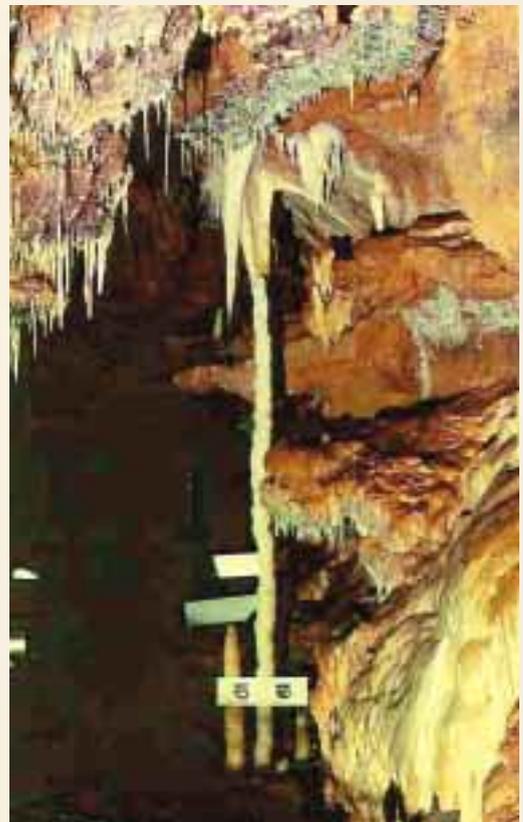


紅葉が美しい秋の磐窟谷

や神野では石塔のように立ち並ぶ溶け残った石灰岩（カレンフェルト）や、階段状に開墾されたすり鉢状のくぼみ（ドリーネ）が見られます。

この台地を南西から北東に走る断層に沿って、布瀬川の流れが数キロに

わたり深い峡谷を刻み込みました。これが磐窟谷です。けわしい谷壁に連なる高さ六〇〜一〇〇メートルの絶壁は、それぞれ継子岳、白岳、神楽岳、打岳などと名づけられています。このうち六十落しと呼ばれる断崖には、年若い人々を突き落としたという悲しい伝説が伝えられています。峡谷を覆う植物群には、自生の北限となるムサシアブミや石灰岩地帯を好むヤマトレンギョウ、アオイカズラなどの珍しい植物が含まれるほか、秋にもなると赤や黄色に色づいた紅葉が、白い岩肌に照り映えて美しい景観を見せてくれます。また谷底には、ひつ淵や蒸しがめと呼ばれる甑穴（流）水により転がった石が川底を削ってつくった穴）があり、カジカやカスミサンショウウオなどの稀少な生物も見られます。



日本最長といわれる石筍

打岳の中腹にある磐窟洞は、断層に沿って真っ直ぐに続く全長三五〇メートルの鍾乳洞です。昭和四一年、爆破によって開口するまでは密閉された状態にあり、純白の鍾乳石や透きとおって光り輝く方解石の結晶が見られたことからダイヤモンドケープとも呼ばれています。中にはモヤシのように曲がった鍾乳石や高さ二・三五メートルの石筍もあって、その神秘的な光景に驚かされます。

磐窟谷は昭和六年、国の名勝に指定されました。
 （文・高梁市文化財保護審議会委員 重見之雄、写真の出典・「川上町の文化財」川上町教育委員会）

